

「(仮称) 生物多様性ちば県戦略」専門委員会提言(案)

はじめに

要旨

第1章 戦略策定の趣旨

- 1 生物多様性の衰退が、わたしたちの資源・環境・経済の面でわたしたちに大きな負荷をもたらしているのみならず、人々の身体・健康の面でも影響を及ぼし、安全な生活をおびやかしている。
- 2 千葉は豊かな自然・文化に育まれた生物多様性を有してはきたが、その退行を阻止し、生命(いのち)のにぎわいをよみがえらせることが緊急に必要なになっている。
- 3 生物多様性がもたらす健全な環境と恵み多い資源を大切に、子どもたちや将来の人々に伝える仕組づくりを行わなければならない。

第2章 生物多様性と保全目標（50年後の生物多様性豊かなちばの未来像）

46億年といわれる地球の歴史を1日にたとえれば、生命の誕生は約40億年前（午前3時頃）、多細胞生物の誕生は12億年前（午後6時頃）、陸上への進出は4億年前（午後10時頃）、人類の誕生は700万年前（午後11時58分）、現生人類の誕生は20万年前（午後11時59分56秒）にすぎない。ところが、人類の登場によって、生物種の絶滅の速度は、100～1万倍に増加したといわれる。

房総半島に人が住みついてから約3万年、私たちは生物多様性の恵を享受して暮らしてきた。しかし、過去50年、開発による生息地の破壊、里山の手入れ不足、外来種の侵入などによって、いまや房総半島の生物多様性は危機に瀕している。私たちは、これからの50年、再び生物多様性豊かなちばを取り戻すため、以下のような保全目標を定め、県民が力を合わせることを誓う。

1. 千葉県は、黒潮と親潮との出会いによる海の豊かさと、里山における人と自然との共生によって育まれてきた。これ以上の生物種の絶滅を回避し、遺伝子の多様性の消失を防止するとともに、房総半島の生物が安定的に生息・生育できる自然環境を回復することを目標とする。
2. 千葉県は、私たちの健康で安全な生活の基盤であり、資源やエネルギーの供給源でもある。生物多様性からの恵みを、私たちの世代で枯渇させることなく、将来の世代にさらに豊かな状態で引きつぐため、持続可能な資源利用と循環型社会を実現することを目標とする。
3. 千葉県は、房総半島の里山・里海を形成するとともに、私たちの豊かな文化を育んできた。生物多様性の喪失は、房総半島の文化の喪失につながりかねない。このため、人と自然と文化が調和して暮らすことのできる共生型社会を実現することを目標とする。

50年前の千葉県の生物多様性

現在の千葉県の生物多様性

50年後の千葉県の生物多様性